会長の時間　　令和５年５月１５日第２０８８回例会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会長　田中和俊

　イマジンロータリー！先週に引き続き、高校時代の話をします。高校は姶良市にある鹿児島県立加治木高校でした。入学してすぐ、１年生の時に、隣のクラスの女子に恋をしました。当時は１年生は文系理系に分かれておらず、トップクラスというものも作っていませんでした。ただし英語だけは成績順に分けていたので、その子が成績がいいということがわかりました。２年生からは文系理系に分かれてトップクラスができます。入試の成績はあまり芳しくなかったことは１年生の担任の先生から家庭訪問の際に聞かされていましたが、なんとか１００番以内に入れば文系のトップクラスに入れて同じクラスになれそうだなと勝手に目標を決めて、猛勉強しました。そして晴れて同じクラスになり、お付き合いが始まればよかったのですが、クラスの他の女の子とは話せるのに、どうもその子とは恥ずかしくて話ができません。悶々とした状況が続きましたが、やっとチャンスが巡ってきました。３学期のクラスマッチのあとに、二人っきりになるチャンスがあったのです。勇気を出して告白しましたが、翌日の返事はＮＯで、見事撃沈でした。そのまま彼女もいない高校生活でしたが、そのおかげで成績も上がり、大学まで進学できたことは感謝しています。しかし、今考えるとなんていい加減な高校生活を送っていたんだろうと反省しています。まず宿題しかしない。宿題もなんとか楽をしようとする。時々サボって帰る。そんな学習態度ですから、定期テストではそこそこ取れても、実力テストは散々でした。基本的に暗記すればよい中間テストや期末テストは、一夜漬けでけっこうできてましたが、実力テストは順位が下がっていました。今ならちゃんと計画を立てて、出るところ出ないところ、大事なところそうでないところがわかります。当時はまったく何も考えないで勉強するフリをしていました。まあまあの成績で３年生になり、当時の地方の県立高校ですから、当然周りの友人たちは国立大学を目指してます。私も国立かなあ、でも東京に行きたいなぁ、東京の国立は難しいなあと思っていました。５月か６月ごろでしたか、ホームルームで担任の先生から東京の私立大学の指定校推薦入学の話がありました。憧れの東京にある大学でした。すぐに母親に相談してぜひ行きたいと言いました。行きたいなら行きなさいと言ってくれました。今考えると学費も高いし仕送りもかかるのによく許してくれたなと思います。次の日には担任の先生にお願いしました。なんとか学校内の選抜も勝ち抜いて、夏休みの時期に小論文、面接の試験に上京しました。今考えると恥ずかしい内容の小論文、面接でした。しかしながら合格していました。１０月初めでしたので、学年で最初の合格でした。その時に楽をした分、司法書士試験で苦労したのでトータルで見るとそれはそれでよかったのかなと思います。年が明けると住むところを探しに上京したりで、東京のおじさんには大変お世話になりました。４年間こちらからはあまり連絡も取りませんでしたが、何かと気にしてくれて、時にはごちそうしてくれたりとありがたい存在でした。そこから楽しい東京での大学生活が始まりましたが、次の機会にお話しします。